

最高の1本を選ぶ ストラット 試奏ガイド



“日本一東京ドームで弾いた男”
矢倉聖悟がナビゲート！



ストラトキャスターとひと口に言っても、楽器店には色んなタイプが置いてあります。そこでこの付録では、“自分に合った最高のストラト”をゲットするためのアドバイスをご紹介！ 初心者はもちろん、上級者の方も改めて参考にしてもらいたいチェック項目をまとめました。

ストラトを選ぶ際はこの14項目をチェック！

では、**突倉のナビゲート**のもと、**14のチェック項目**で最高のストラトを探しましょう。**ほか**のギターでも使える**ネタが満載**なので、**試奏**の**手引き**としても役立てて下さい！



サンバーストか、塗りつぶしカラーか？

第一にルックスですね。まず大切なのは、サンバーストが塗りつぶしのどちらが好みかを決めること。一言で“ブルー”と言っても多岐にわたりますし、実はサンバーストでも黄色味の割合などでガラッと印象が変わります。これはネット上の画像ではなかなか判断が難しい。実際にお店に行き、現物を見るのがベストですよ！



抱えてみた時の重量感を確認。

抱えた時のチェック・ポイントはまず、重さとバランスです。ストラトは秀逸なデザインなので基本的に変なバランスのものではなく、その点は大丈夫。問題は重さです。ステージで弾く人も家で楽しむだけの人も、いずれにせよ極端に重く感じるギターは手に入る頻度が減っていきます。自分の骨格や体型との相性で選ぶのが良いと思いますよ。



ネック・シェイプはどう？

ネックのシェイプは薄め、厚め、U字型、V字型など様々なパターンがあります。アコギ経験者がエレキを弾く場合、その違いはより顕著に感じでしょう。コード・プレイ主体の方はグリップ太め、逆に単音フレーズ・メインの演奏は薄めのほうが適しているという一般論もありますが、案外慣れてしまうものです（笑）。自分の感覚優先でOKです。



弦高&PUの高さを店員さんに相談してみる。

ギターはネックの状態、弦高、PU（ピックアップ）の高さを調整するだけで音も弾き心地も劇的に変わります。でも初心者の方ではどの状態が正しいかわからないですね。その場合は店員さんに“調整でもっと弾きやすくなりますか？”と聞いてみましょう。“見た目は良いけど弾き心地が……”という悩みは、調整で解決する可能性大！



指板はメイプルか、ローズウッド系か？

ルックスだけでなく音や演奏性にも大きな影響があるのが指板材です。クラブトーンが好きだからメイプル、ジョン・フルシアンテのローズウッド指板がカッコいい！ など、好きなギタリストでチョイスするのも大アリですよ。ただ、弾いた感触はかなり違います。最近はサラサラした手触りのメイプル指板も多いので、それも含めてチェックしましょう！



ヘッドのサイズ／デザインはどれが好き？

次にヘッドの大きさ。ストラトにはいわゆるスモール・ヘッドとラージ・ヘッドと呼ばれる2種類のデザインがあります。これもシンブルに好みで決めて良いと思いますが、僕個人の見解で言いますとスモール・ヘッドはオープンな響き、ラージはギュッと密度のある響き、という大まかなサウンドの違いを感じます。



中級者は指板のアールも気にしよう。

指板面のゆるいカーブを“アール（R）”と言います。ビンテージ再現系モデルはそのカーブがキツいものも多く、弦高をかなり下げた場合はチョーキング時に音が詰まることがあります。でも最近のモデルは加工精度が高いし、ほとんどが大きめのRとなっているので心配不要かも。シビアなセッティングを求める人は要チェックです。



フレットの“太さ”と“高さ”もチェック。

フレットにも様々なタイプがあります。大まかにビンテージ・タイプなら細く低めのもの、モダン仕様なら太く高めのものが採用されていて、各モデルごとに想定された演奏に適した選択がされています。ただ、左手の感覚に直結する部分なので両方の感触を知っておくのは大事。中古ギターの場合は消耗による凹凸具合も要確認ですよ！



いきなり歪ませずに“クランチ”で弾いてみよう。

試奏する時は少しだけ歪んだ音(クランチ)でチェックするのがお勧めです。ピッチの具合、倍音の出方、サステインの減衰の感じ、ツマミやセレクターの音色変化など、クリーン・トーン時よりも得られる情報が多いと思います。経験上、クランチで良い音だと感じるギターならハイゲインでもクリーンでも自分好みの良い音がしますね。



試奏フレーズは“ストローク”と“アルペジオ”を。

実際に弾く際のチェック・ポイントはまず、いろんなコードをゆっくりとしたストロークでジャランと鳴らしてみ、極端に音量差のある弦がないかを確認します。そしてそのままアルペジオで弾いてみましょう。ギターによって微妙に各弦の間隔は違います。違和感を感じたら、それはすぐに慣れる程度のものかどうかの判断が必要です。



チョーキングでテンション感をはかる。

ギター経験者の方であれば、チョーキングを織り交ぜたフレーズでのチェックもマストです。ギターによって弦のテンション感はけっこう違います。いつもの力加減できれいに1音上がるのか? ある程度調整も可能ですが、自分との相性が一番重要。そのギターに張られた弦のセット・ゲージが.009か.010かの確認も必要になってきますね。



ボリューム・ノブの効きはどうかろう。

ギターのボリューム・ノブは音量だけでなく音色も変化させます。最近ではボリュームを絞った際でも高域が減らない工夫が施された仕様がありますが、適度に高域も落ちてくれたほうが使いやすい人もいるでしょう。演奏スタイルによっては、ここは重要ポイントですよ。リアPUにトーンが効くストラトも最近が多いですね。あれは便利です。



PUセレクターの全パターンで音を出すべし。

ストラトの醍醐味とも言えるPUセレクトのバリエーション。セレクト・レバーの各ポジションの音色を楽しみつつチェックしましょう。ここでの音量差はセッティングによるところが大きいのできほど気にする必要はありませんが、中古品であればスイッチのノイズや接触不良は見落としがちな部分です。忘れずチェックしておきたいですね。



“G”がいに感じに鳴ると当たりの1本!?

これは僕の個人的な判断方法なのですが、オープン・コードのGを鳴らしてチェックします。6弦から“ソシレソシソ”という3度の並びがきれいに響くかどうか、押弦と開放弦とのバランスなどを判断します。特に2弦と3弦のメジャー3度の響きは、ギターにとって鬼門とも言える関係性(笑)。かなり深い部分ですが、ご参考までに。

おわりに

実倉聖悟

Profile

ししくら・せいご●北海道出身。高校卒業後に単身渡米、武者修行ののち帰国。国内を拠点に、嵐やV6などさまざまなアーティストのレコーディングやライブに参加。“日本一東京ドームでギターを弾いた男”とも言われている。本誌の新製品レビュー執筆も担当中。



僕なりにいろいろなストラト選びのポイントをご紹介してきました。予想以上に項目が多くなってしまいましたが、そもそもギター選びにルールなど存在しません。各項目の中で気になった部分だけでも参考にして頂ければ幸いです。特にフェンダーのストラトキャスターはもう、定番の名器。重量バランスもネックのシェイプも異常なモデルはまずないですから、見た目だけで選んでも実はほぼ問題ないです(笑)。

ストラト自体が名器なので、見た目でも選んでもほぼ問題ないです(笑)。

題ないです(笑)。

そしてギターはセッティングがとても重要です。ストラトは調整できる箇所も多いので、多少の違和感は簡単な調整で解決できる場合が多々あります。購入時にはこちらがお願いすれば基本調整してくれるお店もあると思いますので、ぜひ相談してみましょう。店員さんやギターに詳しい友人、先輩とのコミュニケーションもまた楽しいものです。

ちなみに、今僕が気になっているストラトはリアにハムバッカーが載っているモデル。1つのライブでいろんなテイストの曲を演奏することが多いので、繊細な音もパワフルな音も出せるストラトにはつい目がいてしまいます。みなさんはどんなモデルが気になっていますか? この記事が少しでも最高の1本を見つける参考になれば幸いです。素敵なギター・ライフを!



最高のストラトキャスターを選ぶ

14のチェック・リスト

印をつけてみよう！

☐	1. サンバーストか、塗りつぶしカラーか？	☐	8. 弦高&PUの高さが気になったら店員さんに相談
☐	2. 指板はメイプルか、ローズウッド系か？	☐	9. いきなり歪ませずに“クランチ”で弾いてみよう
☐	3. ヘッドのサイズ／デザインを決めよう	☐	10. ボリューム・ノブの効きはどうか？
☐	4. 抱えてみた時の重量感を確認	☐	11. PUセレクターの全パターンで音を出す
☐	5. ネック・シェイプはどうか？	☐	12. 試奏フレーズは“ストローク”と“アルペジオ”を
☐	6. 中級者は指板のアールも気にしよう	☐	13. チョーキングでテンション感をはかる
☐	7. フレットの“太さ”と“高さ”をチェック	☐	14. “オープン・コードのG”がいい感じに鳴るか？